

人関係の言葉からみえてくるサオ族の社会

著者	新居田 純野
雑誌名	長崎外大論叢
号	15
ページ	57-68
発行年	2011-12-30
URL	http://id.nii.ac.jp/1165/00000117/



人関係の言葉からみえてくるサオ族の社会

新居田 純 野

Society in Thao (Taiwan) Seen from Human Relation Words in the Thao Language

NIIDA Sumino

Abstract

Thao is the language of the native Thao people residing in Taiwan's central region and belongs to the Austronesian family of languages. In 2001 the Thao people were officially recognized by the Taiwanese government as the 'tenth aborigine' in Taiwan. Their traditional language is one of the 'languages on the verge of extinction (endangered languages)' with extremely few speakers. In addition, the influence of marital relations with Bunun has led the Thao language to adopt many loan words from the Bunun language.

This paper is concerned with the linguistic relationships and mutual recognition between families, relatives, and others in the Thao society.

A strict name ranking is used to classify members of Thao society by age. Elders are highly respected, and the feeling of respecting an ancestor is particularly strong. However, this is maintained without creating a hierarchical consciousness.

Although there is a work assignment by gender, there is no sex discrimination. Thao society places special emphasis on the happiness of all Thao people; it is a society based on mutual cooperation and shared lifestyle without the constraints of hierarchical order.

1. はじめに

台湾中部の日月潭周辺に居住するサオ族¹は、中華民国台湾政府によって、第十番目の「原住民」として2001年に公認された。そのサオ族の言語、サオ語²はオーストロネシア語族に属する。日常生活に使用する言語は、主に台湾語と中国語であり、サオ語を日常的に話せる人は60代後半以上のごく少数の人たちであり、「消滅の危機に瀕した言語」の1つとなっている。サオ語の文法調査に対応可能な人は現時点ではわずか二名である。また、サオ族はブヌン族と婚姻関係を結ぶことがあり、交流もあるので、サオ語の語彙にはブヌン語からの借用語が多くみられる。

筆者は、2002年よりサオ語を流暢に話すことのできる現在88才のキラシ氏に聞き取り調査をしている。本稿では、これまでの聞き取り調査をもとに、家族間の呼称や親族の呼び方、また、サオ族社会における人間関係をどのようにとらえてお互いに呼び合っていたのか、あるいは認識していたのかなど人関係の言葉からサオ族の社会についてみていくことにする。

2. サオ族の社会構造について

サオ族の社会は、基本的には一夫一婦制の父系社会である。夫の家に妻が入り、夫の両親との同居となる。氏族は7つ（袁 Shnawanan、石 Lhqatafatu、毛 Lhqapamumu、陳 Shahihian、高 Stamarutaw、白 Sapit、丹 or 朱 Stanakunan）あり、同じ氏族同士の結婚は許されていない。子どもが生まれたら、出生後一カ月して父親が命名するが、男子であれば祖父の名前を、女子であれば祖母の名前を踏襲する場合が多いようである。

男女では仕事の分担があって、男性が部族を守るための狩猟や戦争、部族運営に関する行政、祭礼の挙行等を受け持っていた。また、部族の行政に関する様々なことに関しては長老と部族会議が決定権を持っていた。それぞれの氏族には世襲制（長男）による頭目が決められており、頭目は部落内の紛争や他族との紛争、処罰の執行や祭事など様々なことにおいての責任者となっていた。

サオ族社会は基本的には男性中心社会であり、サオ族社会上でのさまざまな取り決めや祭事の挙行はすべて男性が中心となって行うが、祖先の言葉を伝えるシェンシェンマ（先生媽）と呼ばれる7名の選ばれた女性祭司がいて、シェンシェンマは豊年祭での祖先への祈禱、祖霊の崇拜のほか、冠婚葬祭、成人式、新居建築、造船などに際して祈禱をおこなう。また、シェンシェンマは霊的な執行者となって、病気の治療や人の魂の呼び戻しなどにも大きな力を持っていたとされている。シェンシェンマになるためには、必ず最高祖霊の夢と自分がシェンシェンマになった夢を見る必要があるとされており、その夢で最高祖霊からシェンシェンマになる命を受けたとされる。そのためには最高祖霊がいるといわれている Lалу 島に許可をもらいに行かなければならない。また、シェンシェンマになるためには、次の三つの条件が義務付けられている。

- (1) 夫が豊年祭の主祭を担当したことがある。
- (2) 一族の合意をもらう。
- (3) 最高祖霊 Pacalar の同意をもらう。

3. 人関係の言葉からみた家族関係

サオ族は父系社会の男性中心の社会であるが、男女差別的な考えは少ないようである。頭目を長として仰ぐが、身分的な上下関係はほとんどないといえそうである。

(1) 結婚

一夫一妻が厳しく定められているが、愛人と許嫁の別々の呼び方がある。結婚を前提としている恋人「許嫁」は *mapa-ushinaw* で、結婚には関係ない「愛人」は *kawiaz* である。「許嫁」は動詞「好き」の派生語であり、「愛人」はブヌン語からの借用語である。ブヌン語では、*kawiaz* には「交際している異性」と「一般の友達」の二通りの意味があるが、サオ語では「愛人」の場合のみに借用しているのは興味深い。

mapa-ushinaw

お互いに -好き

被調査者によると、男女間の上下関係はあまり意識していないということだが、結婚する場合、女性であれば *mu-ayuzi* 「男性のところに行く」すなわち「結婚」となるが、男性の場合は、*m-ara binanaw'az* 「女性をもらう」で「結婚する」となる。これは男性側の家に入ることと関連して、やはり、

サオ族社会の状況を反映しているといえるだろう。

mu-ayuzi : 女性が結婚する

行く - 男

m-ara binanaw'az : 男性が結婚する

もらう 女

サオ族では、嫁が妊娠すると、その家に知らせに来るといわれている「フクロウ shmadia」は縁起がよいとされている。そのフクロウについての伝承物語の中で、夫が仕事で出かける時、姑の言いつけをよく聞くようにと妻は夫から諷められる場面がある。また、子どもができない嫁は夫の両親から「なぜ生まれないんだろうか」と言われ続け、妻もひどく気にする場面がある。このように、嫁は夫の家にもらわれていった存在であり、子どもができないと結婚生活が難しい様子が描かれている。

現在 80 代の男性は結婚相手を父親に決められ、60 代後半の男性は自ら見染めた女性と結婚している。このように、サオ族のなかでも年代によって両親が絶対の決定権を持っていた時代から、少しずつ変わってきている様子がうかがわれる。

結婚する相手には、部族の繁栄のために同じ氏族同士が結婚することはできないというが、サオ族では女性の絶対数が男性よりも少ないため、ほかの部族（ブヌン族）の女性と結婚する機会が多くなっている。

一家の主人のことを talima といい、一般的には父親が talima と呼ばれる。しかし、もし父親がなくなったら、特に男女によって言い方が変わるのではなく、母親が一家の主人となって、同じように talima と呼ばれる。

(2) 再婚

muqtha mu-ayuzi 「また男のところに行く」で「再婚する」となる。再婚する場合、昔は親や兄弟に子供を預けて再婚していた。子どもは小さいときに母親の再婚先について行っても、再婚先の苗字に変えず、大人になったら元の家に戻る。これは財産分与に関わらないようにするためである。

また、talisqadan 「私生児を生む」のような言葉もあり、これは同時に「おなかに赤ちゃんがいて嫁に行く」という意味も表すことから、何よりも子孫繁栄を重視する部族としての姿勢がうかがわれる。

muqtha mu-ayuzi : 再婚する

また 行く - 男

(3) 妊娠・出産

tiaz は「腹部」や「へその上」を表すが、これに mara' in 「大きい」がつく mara' in tiaz で、「大きい腹 = 妊娠している」を意味する。ただし、これはあまりいい表現ではなく、ただ単に腹が大きい場合もこのようにいう。出産する前の 6 か月から 7 か月の時、あるいはもうすぐ生まれそうな時は man-bu-but という。その他に、妊娠初期は lhizán、妊娠を表す一般的な用語は lhqazan、お嫁入り前に妊娠している場合は pu-azazak-an という。

これに関連して、「私生児」は t-in-alis-qadan a azazak、「孤児」は min-taynalu a azazak という。t-in-alis-qadan はお嫁に行く時、父親がわからない子どもがおなかにいることをさすことから「私生児」を表すようになった。

marā' in tiaz : 大きい腹 = 妊娠している

大きい 腹部やへその上

man-bu-but : 出産間近の妊娠

動きを表す接辞 - 体 (豊語)

pu-azazak-an : 婚前妊娠

使役接辞 - 子ども - 場所焦点接辞

t-in-alis-qadan a azazak : 私生児

婚姻外 - 過去接辞 連結辞 子ども

min-taynalu a azazak : 孤児

変化を表す接辞 (なる) - 1人 連結辞 子ども

出産は tish-hubuq というが、hubuq は「出たばかりの植物の芽」のことで、tish は「ものごとが成り立つ、始まる」等の意味を持っていて、動詞化する接辞である。その意味から人の子の出産も表すようになったのではないかと思われる。tish-hubuq のほうがより丁寧な表現となるが、malhi-azazak も「子どもが生まれる」ことを表し、malhi- は誕生を表す接辞であるので、魚であれば、malhi-pilhash となる。男の子が生まれたら malhi-ayuzi、女の子が生まれたら malhi-binanaw' az となる。

tish-hubuq : 出産

ものごとが成り立つ等の意味を表す動詞化する接辞 - 出たばかりの植物の芽

malhi-azazak : 出産

誕生を表す接辞 - 子ども

malhi-pilhash : 魚の誕生

誕生を表す接辞 - 魚

malhi-ayuzi : 男子出産

誕生を表す接辞 - 男

malhi-binanaw' az : 女子出産

誕生を表す接辞 - 女

(4) 子ども・青年・年長者

抱っこしている状態の乳児は a' a で表し、歩くようになったら azazak となる。azazak は子供の一般名称で、親からみたら、たとえ大人になっても自分の子供は azazak である。

2～3歳の子供なら azazak-uan となる。

昔は大人になる儀式として犬歯を抜いたが、その年齢は10歳から11歳であった。しかし、日本統治時代に歯を抜くことによって菌が入ったりするなどの危険性があるということで、その風習は禁止された。キラシ氏の時は、儀式として抜く真似だけをして、実際には抜かなかったそうである。

azazak-uan : 2～3歳の子供

子ども - まだ

若い女性・男性は parhaway という。特に20歳前後の大人になった女性は、binanaw' az-iza で、男性は17歳から18歳のときは a-min-parhaway、20歳前後になればは parhaway となるが、parhaway が使えるのは30歳くらいまでである。

binanaw' az-iza : 成人した女性

女 - すでに

a-min-parhaway : 17 歳から 18 歳の男性

非実現 - なる - 若者

年長者は年齢によって呼称の区別があり、60 歳以下は mantusith-iza、50 歳から 60 歳は mantusith ともいう。これは半分年寄りという意味である。60 歳から 70 歳は tuq-tuqash、tuq-tuqash-iza で、80 歳ぐらいのお年寄りは min-tuqa-tuqash-iza という。

ただし、年齢に関係なく集団の中では年上の人に対して、mashi-tan-tuqash という。また、tana-tuqash は祖先のことである。このように、サオ族のなかでは、敬意の払われる祖先と同様の言葉が年長者には使われ、敬意が払われる。

mantusith-iza : 60 歳以下

半分年寄り - すでに

tuq-tuqash、 tuq-tuqash-iza : 60 歳から 70 歳ぐらいの年長者

年長 (豊語) 年長 (豊語) - すでに

min-tuqa-tuqash-iza : 80 歳ぐらいの年長者

なる - 年長 (豊語) - すでに

mashi-tan-tuqash : 一般的な年長者

状態接辞 - 年長 (豊語)

4. 人を表す言葉からみたサオ族の社会

(1) 他部族の呼称

まだブヌン族との婚姻がほとんどなかったころは、ブヌン族のことを自分たちよりも下に見て、おいしくないものを食べる人の意味である rawa-raway と呼んでいたという。しかし、部族間での結婚が頻繁に行われるようになってからは、ブヌン族自身が使っている bunun と呼ぶようになった。また、自分たち部族以外 (ブヌン族も除く) のあまり見たことのないどこの人かわからない人たちをまとめて shahitan と呼んでいた。たとえば、伝承物語にある、身長の高い小さな部族のこともこのように呼んでいた。

また、tata qbit a thaw は他の部族の人であり、近代になって接触を持った日本人、本土人、アメリカ人などのこともさすようになった。同じ部族の人は、tata-la qbit、tata-la thaw (同じ種類の人) となる。このように、自分たちの生活に他族などが関わってくると、自分たち以外の人、知らない人などと呼んでいたのが、だんだんと個別化して呼ぶようになる。ツォウ族を初め shiwula と呼んでいたが、shiwula はツォウ族がかつてサオ族が住んでいたという言い伝えがある阿里山に住んでおり、「あそこに住んでいる人」という意味である。敵であったタイヤル族は min-pazish と呼ぶ。本土人、福建人のことは Shput という。

tata qbit a thaw : よその族の人

一 グループ 連結辞 人

tata-la qbit、 tata-la thaw : 同じ部族

一 - だけ グループ 一 - だけ 人

min-pazish : タイヤル族

なる - 敵 * PAN (オーストロネシア祖語) pajiS enemy (Blust (2003:701))

日本人のことを maranash という。これは日本による統治時代が始まって、日本の警察が日月潭に来るようになったが、その警察の人がはげ頭で里芋のような頭だったので、里芋を表す maranash と陰で呼んだのが始まりだそうだ。また、maranash は ma-rana-ranash となって髪の毛の薄い人のことを表していた。maranash は、初めは日本の警察の人を呼ぶ言葉であったが、次第に日本人全体を表すようになった。

ma-rana-ranash : 髪の毛の薄い人

状態接辞 - 毛の少ない (疊語)

qali は人間の魂を食べてしまう鬼のことである。特に湖に住む鬼は takrahaz という。その他に kati A-kan (名前) というように、死者につける特別な敬称 kati があることが、今回の調査で初めてわかった。

(2) 日本統治時代のサオ族社会

日本統治時代になると、日本の政府や日本の企業が身近になり、それまでのサオ族のなかで使われていた言葉を工夫して呼び方が考えられた。サオ族のなかでの頭目 dadu は、仕事をする際の一番上の人のことを指す呼称に使われるが、会社の社長のことを dadu と呼ぶようになった。mania ya thaw は「能力の高い人」という意味であるが、社会的に地位の高い医者などに使われるようになった。これに対して、ma'rain a thaw は仕事場での地位のある人のことで、役場の市長さんなどを指す。shanautuan はサオ族のなかではサブ・リーダーを指す語であるが、日本統治時代からは工場の主任、会社の地位のある人に使われるようになった。一家の主人を表す talima は涵碧楼にあった日本人クラブの長となる人を呼ぶのに使われた。

日本の総理大臣は、lipun a mara'in a dadu、観光客は kilhnaqualh a thaw。この他にも、職業を表す造語が多くみられる。

mania ya thaw : 偉い人 (医者など)

すぐれた 連結辞 人

ma'rain a thaw : 仕事場での地位のある人 (市長)

大きい 連結辞 人

lipun a mara'in a dadu : 日本の偉い頭目 (日本の総理大臣)

日本 連結辞 大きい 連結辞 頭目

kilhnaqualh a thaw : 遊ぶ人 (観光客)

遊ぶ 連結辞 人

mu-buhat-buhat a thaw : 畑に行く人 (農業をする人)

行く - 畑 (疊語) 連結辞 人

k-m-a-kishikishi fukish : 髪を切る人 (床屋)

切る - 動作を表す接辞 髪

malhkakrikriw a thaw : 仕事をする人 (事務員 (市役所))

仕事 連結辞 人

k-m-alawa-lawa	ruza : 船を作る人 (船大工)
作る - 動作を表す接辞 (豊語)	舟
k-m-alawa-lawa	su taun : 家を立てる人 (大工)
作る - 動作を表す接辞 (豊語)	対象を表す小辞 家
shamashi-kishkishi	kawi : 木を切る人 (木こり)
切る	木
s-m-apuk- s-m-apuk	rusaw (qa-ribush) : 魚 (獣) をとる人 (漁師、猟師)
捕まえる - 動作を表す接辞 (豊語)	魚 (獣)
palhi-azazak-an	: 子供の番をする人 (子守)
使役の接辞 (生まれる) - 子ども - 場所焦点接辞	

5. 親族の呼称

家族の細かい呼称の区別はあるが、親族関係はあまり細かく区別をしない。piathauthaun は妻方の親戚の呼称であるが、同時に父親の兄弟の孫もこのように呼ぶそうである。親戚とはいっても距離のある関係に対しての呼称ということになるのだろうか。また、mawala は妻の兄弟、姉妹の夫、姉婿、妹婿など親戚の男性陣を指し示す。夫の兄弟、兄弟の妻、兄嫁、弟嫁、姉の夫などを呼ぶ時は名前で呼ぶが、名前で呼ぶということは、意識としては親戚よりも心的距離が遠いということだとも考えられる。ただし、年上の人に対しては、たとえば叔母であれば ina + 名前 (ina Ishaul)、男性であれば ama + 名前 (ama Kilash)、年をとっていたら、apu + 名詞 (apu Kilash) のように呼ぶ。また、同じ家に年寄りが二人いる場合は、年齢の低いほうの年寄り「小さい年寄り」という意味で apu qi' ay、年齢の高いほうの年寄りは「大きい年寄り」という意味で apu ra'in と呼ぶ。たとえば、祖父は apu qi' ay、曾祖父は apu ra' in となる。

同居する可能性のある家族の呼称に関しては、これまでの先行研究でもほぼ一致しているが、それ以外の親族に関しては被調査者によって多少相違がみられる。

* 先行研究及び新居田の調査による家族・親族の呼称の比較は資料を参照。

ina Ishaul	: イスツおばさん
母	イスツ (名前)
ama Kilash	: キラシおじさん
父	キラシ
apu Kilash	: キラシおじいさん
祖父母	キラシ
apu qi' ay	: 祖父母
祖父母	小さい
apu ra' in	: 曾祖父母
祖父母	大きい

6. おわりに

年齢の高い人に対して非常に高い敬意を示すが、階級的な意識はほとんどなく、その社会での上下

関係の意識は強いとはいえない。サオ族の祭りなどを執り行う際の代表となる頭目は、代々続いて世襲されるが、祖先との橋渡しの役を担うシェンシェンマ（女祭司）は世襲制ではない。男性と女性の仕事分担はあるが、そこには性差別はない。たとえば、生まれてくる子供にしても必ず男の子でなければならないという強い思いはなく、労働力という点から考えると、もしも女の子しか生まれず男の子がない場合は、その女の子が成長して結婚した相手の男性・婿が女性側の家に対して労働力を提供するので、特に問題にはならなかったようである。

このような社会の中で重視されるのはサオ族皆の幸せである。そのため、基本的にはたくさん食料を得たものは隣近所みんなにその食料を分担し、みんなで協力し合って生活を営む。また、それぞれの所有に関しても、基本的な取り決めがある。たとえば、山に行き薪にするいい木を見つけた時や、また、畑にするのに適当な場所を決めた時は、その場所にある木の幹を彫って、畑なら草を刈って、「しるし」をつけておき、あとからその木や場所を他の人が勝手に使うことはできないということが暗黙の了解となっている。このようにすべてが平等に、上下関係に縛られずに人々は暮らしていたようである。また祖先を敬う気持ちが強く、何よりも年齢の序列による呼称が細かく区分されることが人を表す言葉にも反映されているといえるだろう。

【註】

(注1)

サオ族は南島の一族と分類されている台湾原住民であり、台湾政府（行政院）は、2001年にサオ族を台湾における「第十番目の原住民」として公式に認定した。現在の人口は700人前後である。現在では、日常生活に使用する言語は、主に台湾語と北京語である。そして、サオ語はサオ族同士の会話の中に時々使用される程度である。

(注2)

サオ語の子音とその表記は、/p/, /b/, /m/, /f/, /t/, /d/, /n/, /th/[θ] (Blust(2003)の表記は /c/, /s/, /z/[ð], /lh/[ʎ], /l/, /r/, /sh/[ʃ], /k/, /ng/[ŋ] (Blust(2003)の表記は /g/, /q/, / ' /[glottal stop], /h/, /y/, /w/ である。母音は /a, u, i/ の三つだが、/i/ は /q, r/ と連続するとき [e][æ][ɛ] などに、/u/ は /q, r, ng/ と連続するとき [o] となる。/b, d/ の前と、語頭・語尾の母音には glottal stop が現れるが、本稿では表記を省略した。アクセントは、基本的には後ろから二番目の音節にくる。

【参考文献】

- 鄧相揚『邵族風采』2000(民国89)台湾：交通部觀光局日月潭國家風景區管理處
簡史朗・石阿松 編著(2001)『邵語讀本』台湾：行政院文化建設委員會
Blust, Robert(2003)Thao Dictionary, Taiwan: Institute of Linguistics Academia Sinica.
達西烏拉彎・畢馬(田哲益)『台灣的原住民—邵族』(2002)台湾：臺原出版社
李方桂・陳奇祿・唐美君(1956)「サオ語記略」『国立台湾大学考古人類学刊』7:23-51. (猶、国立台湾大学考古学人類学刊編輯委員會編輯 1958に再録されている)
国立台湾大学考古学人類学刊編輯委員會編輯(1958)『日月潭邵族調查報告』国立台湾大学考古人類学專刊第一種. pp.169.

【付記】本稿は2010年-2012年度文部科学省科学研究補助金（基盤研究C課題番号22520452『危機言語サオ語（台湾中部）の記述研究及び仮名で記録されたサオ族伝承物語の分析』）の助成を受けている研究に基づく。

資料【親族の呼称・比較表】

親族	李方桂他 (1956)	鄧相揚 (2000)	簡 (2001)	Blust(2003)	新居田
父	ʔá-maʔ	ama	ama	ama	ama
母	ʔí-naʔ	ina	ina	ina	ina
夫	ʔa-jú-ð íʔ	ajuzi	ayuzi	ayuzi	ayuzi
妻	mináwʔa ð	binawaz	binanaw'az	binanaw'az	binanaw'az
子供	ʔaðá-ðak				
息子	ʔaðá-ðak ʔa-jú-ð íʔ	azazak	ayuzi azazak	azazak	azazak
娘		azazak	binanaw'az azazak	azazak	azazak
長男					tan-tuqashi azazak
長女					tantuqashi a binanaw'az a azazak
二男					shashuazi a azazak
二女					shashuazi a binanaw'az a azazak
三男					makin-turu a azazak
未っ子					shashuazi-iza a azazak
妻の父		tuqatuqash rain	tuqatuqash ra'in	tuq-tuqash	apu
妻の母			tuqatuqash ki'ay	tuq-tuqash	apu
夫の父				tuq-tuqash	apu
夫の母				tuq-tuqash	apu
嫁	ʔá-piq	apiq	apiq	apiq	apiq
婿	lú-qiʔ	kiaza	ruqi	luqi	ruqay
兄弟姉妹	miml á-fut				

親族	李方桂他 (1956)	鄧相揚 (2000)	簡 (2001)	Blust(2003)	新居田
兄	Tantú-qaš	minlhaf	Tantuqash minlhafut	minlhafut	minlhafut
弟	šasuw á-ð í?	minlhaf	minlhafut	minlhafut	minlhafut, shashuazi
姉		minlhaf	tantuqash minlhafut	minlhafut	minlhafut
妹		minlhaf	minlhafut	minlhafut	minlhafut, shashuazi
父の父	? á-pu? * 3?, apu-r á?in	apu rain	apu * 4	apu ra'in	apu, apu qi'ay
父の母	? apu- k í?aj	apu kiaj	apu	apu ki'ay	apu ra'in
母の父	? apu-há-íβðis?				
妻の兄弟		mawala	ama+ 名前	mawala	mawala
妻の姉妹		mawala	ina+ 名前		名前* 5
夫の兄弟					名前
夫の姉妹					名前
孫	qá-ti?				
息子の子		ruki	qumqum	qumqum, qati	qumqum
娘の子	qúmququm	kumkum	qumqum	qumqum, qati * 6	qumqum
女の孫					binanaw'az a qumqum
兄弟の妻					名前
姉妹の夫		mawara			mawala, 名前
姉の夫					tan-tuqashi binanaw'az a ayuzi
妹の夫					shashuazi a binanaw'az a ayuzi
父の兄弟		Ama		pan-amá-n	ama+ 名前* 7
父の兄弟の妻				pan-iná-n	ina+ 名前* 8

親族	李方桂他 (1956)	鄧相揚 (2000)	簡 (2001)	Blust(2003)	新居田
父の姉妹		ina		pan-iná-n	ina+ 名前
母の兄弟		ama		tangqabu	ama+ 名前
母の姉妹		ina		pan-iná-n	ina + 名前
母の姉妹の夫			tangqabu	pan-amá-n	名前
兄弟姉妹の子	姉妹の子 tanqá-puá 姪の夫 qúmququm	azazak			名前
曾祖父		apu			apu ra'in
曾祖母		apu			apu ra'in
父の姉妹の夫		ama			ama+ 名前
父の兄弟の妻		ina			ina+ 名前
母の姉妹の夫					ama+ 名前
母の兄弟の妻					ina+ 名前
父の兄弟の子		minlhaf			名前
父の姉妹の子		minlhaf			名前
母の兄弟の子		minlhaf			名前
母の姉妹の子		minlhaf			名前
祖母の兄弟				pan-apu-an	ama+ 名前
祖母の姉妹				pan-apu-an	ina+ 名前
兄弟の孫	qúmququm	kumkum			名前
姉妹の孫		kumkum			名前